

(資料1)平成30年度教育課程表(平成28・29・30年度入学生用)

教科	科・学科・類型		普通科					理数科				
	科目	標準単位	1年	2年		3年		単位数の合計	1年	2年	3年	単位数の合計
				文	理	文	理					
国語	国語総合	4	5					5	4		4	
	現代文B	4		3	2	3	2	4~6		2	2	4
	古典B	4		3	2	3	3	5~6		2	3	5
	国語探究	学校設定				イ2		0~2				
地理歴史	世界史A	2						0~2				0~2
	世界史B	4						0~7				0~6
	日本史A	2						0~2				0~2
	日本史B	4						0~7				0~6
	地理A	2						0~2			イ2	0~2
	地理B	4						0~7		イ3	イ2	0~6
	世界史探究	学校設定						0~4				0~3
	日本史探究	学校設定						0~4				0~3
	地理探究	学校設定					ウ4	0~4			オ3	0~3
公民	現代社会	2	2					2	2			2
	倫理	2						0~2				
	政治・経済	2					ウ4	0~2				
	現代社会探究A	学校設定					イ2	0~2				
現代社会探究B	学校設定						0			オ3	0~3	
数学	数学Ⅰ	3	3					3	(3)			
	数学Ⅱ	4	1	3	3	ア3		4~7				
	数学Ⅲ	5			1			0~6				
	数学A	2	2					2				
	数学B	2		3	2			3~4				
	数学探究A	学校設定					イ2	0~2				
	数学探究B	学校設定						0~5				
	物理基礎	2	2					2		(2)		
理科	物理	4						0~6				
	化学基礎	2	2					2	(2)			
	化学	4			3		エ4	0~6				
	生物基礎	2		2	2			2	(2)			
	生物	4						0~6				
	物理探究	学校設定					イ2	0~2				
	化学探究	学校設定					イ2	0~2				
	生物探究	学校設定						0~2				
保健	体育	7~8	2	2	2	2	2	6	2	2	2	6
	保健	2	1	1	1			2	1	1		2
芸術	音楽Ⅰ	2						0~2				0~2
	美術Ⅰ	2						0~2				0~2
	書道Ⅰ	2	2					0~2	2			0~2
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3					3	3			3
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4	4			4		4		4
	コミュニケーション英語Ⅲ	4				4	4	4			4	4
	英語表現Ⅰ	2	3					3	3			3
	英語表現Ⅱ	4		3	2	2	2	4~5		2	2	4
	英語探究	学校設定					ア3	0~3				
家庭	家庭基礎	2	2				2	2			2	
情報	社会と情報	2										
共通教科・科目単位数計			30	30	30	26~31	31	87~92	19	17	17~20	54~57
理数	理数数学Ⅰ	4~8							5			5
	理数数学Ⅱ	6~12								4	5	9
	理数数学特論	2~6						1	2	2	5	
	理数物理	3~10								3	4	3~8
	理数化学	3~10							2	3	イ3	5~8
	理数生物	3~10							3		イ1	3~8
	課題研究	1~3								(1)		(1)
音楽	音楽理論	2~15				イ2		0~2				
	ソルフェージュ	2~6				ア3		0~3				
美術	素描	2~18				ア3		0~3				
	構成	2~6				イ2		0~2				
SS	Basic Science	学校設定	1					1	1			1
	SS探究基礎	学校設定	1					1	1			1
	SS探究A	学校設定			2			0~3				
	SS探究B	学校設定							2	1		3
SG	SG探究	学校設定		2		1		0~3				
専門教科・科目単位数計			2	2	2	1~6	1	5~10	13	15	12~15	43
単位数計			32	32	32	32	32	96	32	32	32	96
総合的な学習の時間			3~6	(1)	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(2)
ホームルーム活動週当たり時数			3	1	1	1	1	3	1	1	1	3
合計			33	33	33	33	33	99	33	33	33	99

※数学・外国語・理数における同一名の科目は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの順に履修する。

※第2学年理系の理科は、「生物基礎」を履修後、「物理」または「生物」を選択し履修する。また、第2学年理数科の理科は、「理数物理」3単位を履修後、「理数物理」または「理数生物」を選択し、1単位を履修する。

※文系第2学年と理系・理数科第3学年における地理歴史について、「世界史B」を選択し履修する場合は「日本史A」または「地理A」を、「日本史B」または「地理B」を選択し履修する場合は「世界史A」を、それぞれ履修する。また、「世界史B」・「日本史B」・「地理B」は、第2・3学年において継続して履修する。

※普通科文系の第3学年における選択イは、「世界史探究」・「日本史探究」・「地理探究」・「倫理及び政治・経済」から1つを選択し履修する。ただし、「世界史探究」・「日本史探究」・「地理探究」を選択できるのは、第2学年においてそれぞれのA科目を履修した者とする。

※普通科文系の第3学年における選択エは、「化学探究(必修)」と物理探究または生物探究・「化学」・「生物」から1つを選択し履修する。

※理数科の第3学年における選択オは、「世界史探究」・「日本史探究」・「地理探究」・「現代社会探究B」・「理数化学」から1つを選択し履修する。ただし、「世界史」・「日本史」・「地理」各探究」を選択できるのは、第3学年においてそれぞれのA科目を履修した者とする。

※「物理」・「化学」・「生物」・「理数物理」・「理数化学」・「理数生物」は、継続して履修する。

※「社会と情報」は、第1学年において「Basic Science」で、第2学年において、理数科については「SS探究B」で、普通科理系については「SS探究A」で、また、普通科文系については「SG探究」で、それぞれ1単位を代替する。

※理数科は第2学年における「課題研究」の実施により、「総合的な学習の時間」は2単位に減じてある。なお、「課題研究」は「SS探究B」1単位で代替している。

※「総合的な学習の時間」は、理数科については、第1学年において「SS探究基礎」1単位、第3学年において「SS探究B」それぞれ1単位の計2単位で、また、普通科については第1学年において「SS基礎」1単位、第2・3学年において理系は「SS探究A」1単位ずつ、文系は「SG探究」1単位ずつの計3単位で、それぞれ代替している。

(資料2) 運営指導委員会の記録

<第1回>

実施日時	平成30年10月23日(火)	9:45~11:35
実施場所	島根県立出雲高等学校 大会議室	
実施概要	①学校長挨拶 ②授業参観 ③SGH事業説明 ④協議	
出席委員	赤坂 一念	島根県立大学教授(副委員長)
	小村 憲太	株式会社出雲村田製作所管理部人事課シニアマネージャー
	神田 圭子	出雲市総合政策部政策企画課文化国際室長
	中村 宣郎	中村ブレイス株式会社専務取締役
	湯淺 邦弘	大阪大学大学院文学研究科中国哲学研究室教授

【運営指導委員からの主な意見】

- ・ 課題を自分事として捉えることは会社の社員に求めるのも難しい。普段気を付けていることは直近の課題を持たせること。そうすることで少しずつ課題を自分事として捉えることができる。自社の社員でも難しいことを高校でやっていて素晴らしいと感じる。
- ・ 課題研究のテーマにちょうどよくないものがあるときがある。自分たちでできる提言ではなく、理想になっている。生徒対象のアンケートを見ると生徒はそれを自覚しているようだ。
- ・ 留学生の柔軟な受け入れ体制が整っており素晴らしい。継続するとよいだろう。
- ・ 課題の一つは英語のディベートが1対1になっていること、英語での発表が一方通行のものであること。
- ・ 課題研究のテーマ選びは時間をかけて行われるべき。課題研究で学ぶことは10年、20年後に力となって花開くものである。
- ・ 情報発信が重要。SNSやHP作成を通して、どんな研究をしているのか生徒自らが情報発信を行うとよい。
- ・ SGHの後に文理融合型で研究等を実施することは良いと考える。理系の中で文系のことが好きだという人は案外いるが、文系ではそうでもない。文系の中に理系のエッセンスをどう入れていくかということが重要。
- ・ プレゼン力が重要。良いものをまとめても、説明ができずに伝わらないと非常にもったいない。
- ・ 自分の娘はもともと英語嫌いだったが、英語でディスカッションすることの楽しさを知り、それが英語を勉強するきっかけとなった。他にも、「〇〇大学の△△先生のもとで学びたい」という思いから勉強をするというケースを聞いたこともある。このように、課題研究も基礎学力をつけるためのモチベーションになればよいと考える。
- ・ 過去の課題研究の蓄積が見られる部屋みたいなものがあるとよい。そうすれば生徒はその部屋で先輩の研究等について学び、自分たちの研究に生かせるだろう。

<第2回>

実施日時	平成31年2月19日(火)	9:45~11:35
実施場所	島根県立出雲高等学校 視聴覚室	
実施概要	①学校長挨拶 ②今年度の事業報告と来年度の事業計画 ③協議	
出席委員	岸 征男	キシ・エンジニアリング株式会社取締役会長(委員長)
	赤坂 一念	島根県立大学教授(副委員長)
	小村 憲太	株式会社出雲村田製作所管理部人事課シニアマネージャー
	中村 宣郎	中村ブレイス株式会社専務取締役
	湯淺 邦弘	大阪大学大学院文学研究科中国哲学研究室教授

【運営指導委員からの主な意見】

- ・ 教科学習と探究学習は車の両輪のよう。それがSGHでは達成できていたのではないかな。
- ・ 文理融合という考え方も参考にSGH事業をSSH事業に転換していく方が良い。
- ・ 大学生もそうだが、キーワードに食いついてなかなか課題本題に入れないことが多い。そこでいかにうまくダメ出しをしていくかだと思う。
- ・ SGH事業に対して「うらやましい」の一言。大学の学びのスタイルを高校から取り入れていて、当時の自分からすると本当にうらやましい。
- ・ 課題は生徒の視野が狭いこと。自社インタビューの際、ブラジル人には積極的に質問していたが受け入れる側の日本人には聞いていなかった。もう少し視野を広げてほしい。
- ・ 生徒はSGH事業を通して学校(勉強)が好きになったのではないかな。これからはSSHにSGHの良いところを取り入れてさらに発展してほしい。
- ・ 完全に英語で行われる授業、異文化接触が若いうちに経験できることは非常に良いことだ。
- ・ 来年度の海外研修の自己負担額が大きくなるようになることは経済的負担だが、それに見合った人生の糧が得られるのではないかな。肌身で感じた異文化の体験は代えがたいものである。
- ・ 高校生に大学の図書館をってもらうのは、多様な世界を知ってもらう良い機会である。
- ・ 出雲モデルは全国に向けてアピールしていくべきだ。書籍化も検討しても良いと思う。SGH指定の5年の間に野球部の甲子園出場等もあり、良いタイミングではないかなと思う。
- ・ お金をかけずに大きな成果を出すことは大学としても難しいと実感している。
- ・ SSH事業よりもSGH事業において、生徒が早く、主体的に行動するようになった。現場に出る機会を与えることは良いことだ。海外に出ると外向的、行動的になる。
- ・ お金の面は卒業生会の人をお願いしてはどうか。他には、民間の講師を招いてタダで講演してもらうという考えもあるのではないかな。
- ・ 大学側としても、高大接続改革の観点から高校生、大学生と一緒に何かをしながら最後プレゼンにつなげることができないかと考えている。
- ・ 企業としては、グローバル人材に求めるものは日本文化の素養があること、高い言語能力があると望ましい。高校でも遅くはないが、英語等の言語学習は早めに始めてもらいたい。
- ・ 高校生が教わるばかりではなく、中学生の子たちに教える機会があると良いのではないかな。

平成26年度指定スーパーグローバルハイスクール
研究開発実施報告書・第5年次

発行	平成31年3月
発行者	島根県立出雲高等学校 校長 真玉 保浩
住所	〒693-0001 島根県出雲市今市町 1800 番地
電話	(0853)21-0008
FAX	(0853)22-7855

